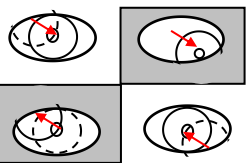


他覚的定量眼位検査-alternate prism cover test(APCT);交代プリズム遮閉試験

準備物 遮閉板・(バー)プリズム・固視目標

外斜視+右上斜視



水平・垂直プリズムの両方使用する時は、片眼装用の場合は通常垂直のギザギザを眼前にして水平の平らな面と合わせて中和するまで2つのバーを上下にずらしてゆく。両眼に振り分けても良いが、上下斜視の置き方に注意！動きの大きい方向を大体中和してから重ねると便利だよ！

Hirschberg 法とカバーテストにて、被検者の眼位と大まかな偏位度を把握する

プリズムの置き方と大まかなプリズム度数を決める

内→中央 : 内斜視(位)→Base out
外→中央 : 外斜視(位)→Base in
上→中央 : 上斜視(位)→Base down
下→中央 : 下斜視(位)→Base up
斜め→中央 : 水平+上下斜視(位)

決められた距離にある目標を被検者に固視させ、プリズムを通常、非優位眼にあて、その上から交代カバーをする

両眼(麻痺・DVD の場合プリズム装用眼)の動きがなくなるまで、プリズム度数を増減してゆく

・同じプリズム度数で何回か繰り返し確認すること。
・両眼開放の機会を与えないこと。
・カバー時間を多くして、全偏位量を出すようにすること。

常に固視目標を見ているかを確認すること！

目的

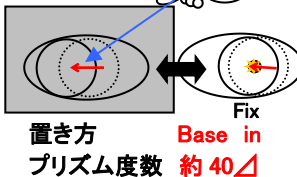
種々の検査距離、むき眼位での他覚的な全偏位量の測定

例)左眼外斜視



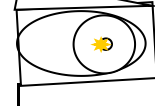
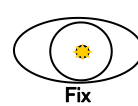
眼位 外斜視
偏位度 約-20°

斜視や斜位の残余分全て含んで外転する

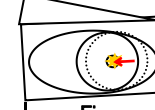
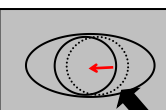


置き方 Base in
プリズム度数 約 40△

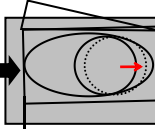
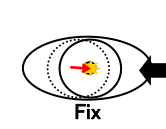
交代カバーテストによる眼球の動きで大体の偏位を見る



約 30△Base in から開始するとする

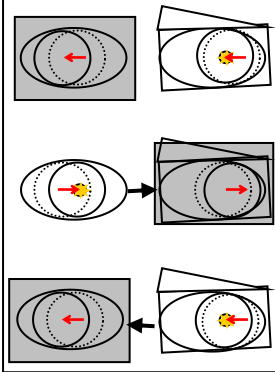


プリズムが不足で、左眼は固視目標を見る為内転し、右眼は外転する



右眼は固視目標を見る為元の位置に戻り、左眼は右眼の戻った分外転する

プリズム装用眼が同方向にまだ動く



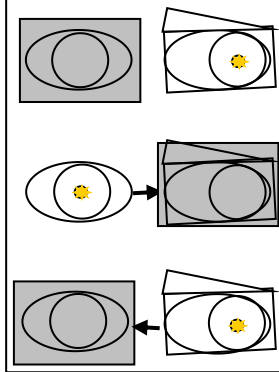
不足

プリズムを増やす

プリズムが限界になった場合、両眼に振り分ける。又はブロックプリズムを使用する又は over や ↑ で表す

両眼に振り分けた場合やブロックプリズムを使用した場合はカルテに分かり易く記入のこと。

両(プリズム装用)眼が動かなくなった！

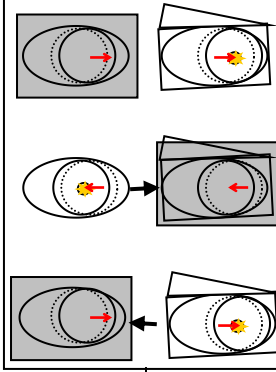


中和

そのプリズム量が全偏位量

プリズムを増加させても眼球の動きが止まったままなら逆転する一つ手前のプリズム度数。(融像除去しているので感覚性融像は入らないはずだが臨床ではよくある。カバー下で全偏位が出る前に交代カバーをした場合などが考えられる)

プリズム装用眼が反対方向に動く

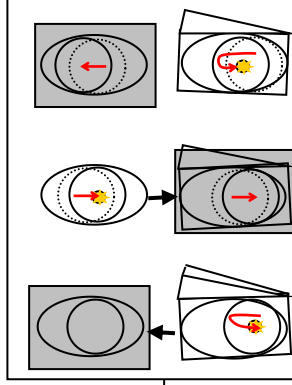


過剰

プリズムを減らす

動きが逆転したので減少させると今度は不足の方向に動く場合、不足～逆転までをプリズム度数で表し、どちらに近いかも参考に併記することが多い。

プリズム装用眼がUターン？止まらない



固視未熟？

Uターンの動きが同等になる量が全偏位量

中心窩ですぐに視標をとらえられない為だと考えられ、行く動きと戻りの動きがほぼ同等になったところをプリズム量とする

記載例)

測定距離

検査名

固視眼

裸眼が矯正か、

眼鏡、プリズム装用か？

斜視と斜位の頻度

1/3m又はNear
5m 又はFar

A. P. C. T

45△ Base in

又は -45△

又は 45△

XPT など

色々

P>T

50△ Base in

又は -50△

又は 50△

XT など

色々

麻痺・DVDの場合、固視眼を変えて測定すること。近視にXPをXと記載する病院あり。

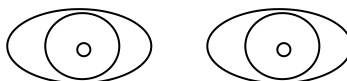
内斜視の場合は近接性輻湊等が入りやすいので臨床では動きの止まった時点をとることが多いが、理論的には逆転する手前。

自分の結果を書いておこう！

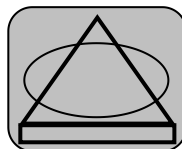
月 日 課題

交代性上斜位(DVD)で水平偏位がないものとしてR-fixでの APCT 測定方法の図に眼球の動きを書いてみよう！

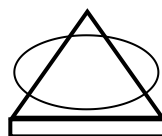
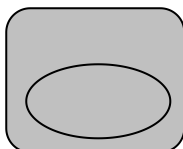
第一眼位(斜位とする)



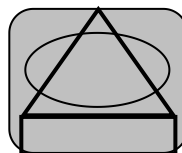
CUT と ACT にて大よその偏位度を推測しておく。推測したプリズムを左眼に装用し、左眼をカバーする



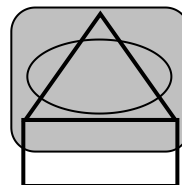
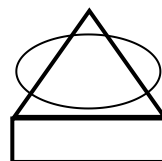
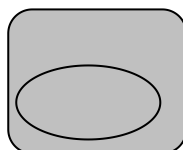
右眼をカバーすると、プリズムが不足で左眼に戻りの動きがある



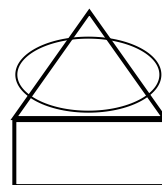
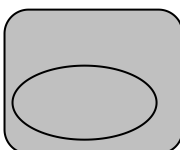
左眼のプリズムを増加させ、左眼をカバーする



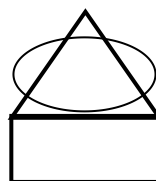
右眼をカバーし、左眼の動きが止まるまで、プリズムを増加させることを繰り返す



右眼をカバーすると左眼の整復運動がなくなる



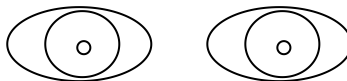
右眼のカバーをはずす



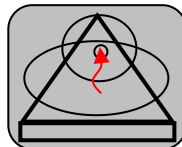
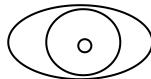
月 日 **課題解答**

交代性上斜位(DVD)で水平偏位がないものとしてR-fixでの APCT 測定方法の図に眼球の動きを書いてみよう！

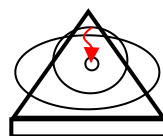
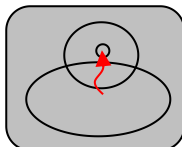
第一眼位(斜位とする)



CUT と ACT にて大よその偏位度を推測しておく。推測したプリズムを左眼に装用し、左眼をカバーする

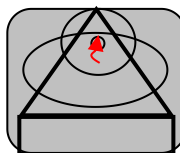


右眼をカバーすると、プリズムが不足で左眼に戻りの動きがある

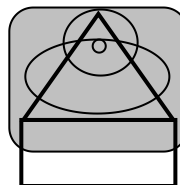
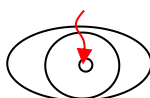
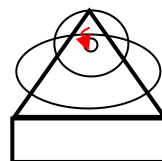
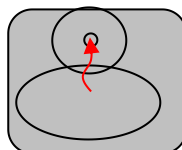


戻りの動きがあった！

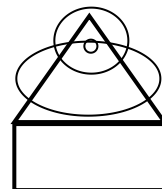
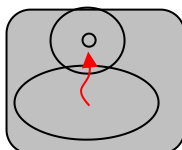
左眼のプリズムを増加させ、左眼をカバーする



右眼をカバーし、左眼の動きが止まるまで、プリズムを増加させることを繰り返す

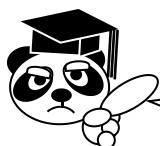
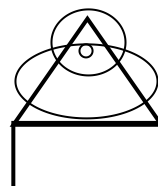
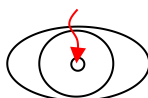


右眼をカバーすると左眼の整復運動がなくなる



動きが止まった！

右眼のカバーをはずす



常にプリズム装用眼の動きを見て、止まった位置とする。だから、左右眼それぞれ測定する必要がある。他眼の動きは止まらない。